

2011年 2月  
早稲田大学入学センター

早稲田大学 社会科学部 一般入学試験問題の訂正内容

**【世界史】**

問題用紙 8 ページ Ⅲ 問 6 質問文 (冒頭)

(誤)

下線部 (F)

(正)

空欄 (F)

以上

2011年度  
世 界 史  
(問 題)

< H23050018 >

注 意 事 項

1. 問題冊子および記述解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
2. 問題は2～11ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。また、解答用紙のその他の部分には何も書かないこと。
4. 解答用紙の受験番号をよく確認すること。
5. 氏名は、試験開始後、解答用紙の所定欄に正確にでいねいに記入すること。
6. マーク欄ははっきり記入すること。また、訂正する場合は、消しゴムででいねいに、消し残しがないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	<input checked="" type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い
マークを消す時	<input type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い

7. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I 次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示通りに解答を選び、マーク解答用紙のその記号をマークせよ。

歴史の長きにわたって生産の基盤を支えてきた農民は、総じて支配され、従属的な地位におかれた存在であったが、時にその不満が大反乱となり、社会を変える力になることもあった。とりわけ秦から清までの中国や中世末期のヨーロッパでは、大規模な農民反乱が繰り返された。

前6000年頃から農耕が始まったとされる中国では、集権化とともに、農業生産力が高まっていった。しかし農民に強い租税や徭役・兵役などの負担は、農村の疲弊と農民の貧窮化を招いた。土地の集中、農民の小作人化・農奴化の進展に対しては、農村社会を再建する試みも行われた。しかし多くの場合、その目的は国家による農民支配の強化にあったために、農民の生活を改善することも、大土地所有者の力を抑えることもできなかった。その結果、紅巾の乱や黄巢の乱などの農民蜂起が繰り返され、しばしば王朝が滅亡へと追いやられた。水田開発が大規模に発展し、農業生産の中心となった江南では地主・小作人制度が強化された。また、明代に銀の流通の拡大によって農民の生活が困窮すると、抗租運動が始まり、運動は清朝初期まで各地で続いた。

他方、ヨーロッパでは11世紀から13世紀にかけて、農業の著しい成長と都市・商業の目覚ましい発展があった。しかし14世紀から16世紀には、比較的安定していた社会に動揺がみられた。農村部では領主・農民関係に変化が生じ、隷属的身分から自由になる農民がいる一方で、農民支配を強化する動きが現われた。農奴解放に至る過程はイギリス、フランスなど西欧と中欧・東欧では異なる。だが、19世紀末までにヨーロッパにおける農奴制は廃止された。

19世紀以降、ヨーロッパの社会運動の担い手は組織労働者へと移行するが、非ヨーロッパ地域では農民が民族主義的、反植民地主義的運動の重要な担い手となることも多かった。また20世紀になっても、革命政権や急進的改革を目指す政権は、農民の状況改善・土地所有の均等化を主要な課題に掲げて、改革を試みた。

問1 下線部 (A) に関し、中国における農業発展についての記述のうち、適切なものをすべて選べ。

- 春秋時代末期以降、牛耕と鍛鉄製農具の使用で農業生産が高まった。
- 秦の商鞅は什伍の制によって、農業生産力向上のために強制的な分家と新開地への移住を促進した。
- 北魏では、乾地農法に関する体系的な農業書『農政全書』がまとめられた。
- 唐代の半ばから、華北では小麦を裏作とする二毛作やアワと小麦・大豆を組み合わせた2年三毛作が普及した。
- 宋代には江南を中心に圩田、圍田、湖田などが造成され、耕地が拡大した。

問2 下線部 (B) に関し、租税・徭役・兵役の制度についての記述のうち、適切なものを一つ選べ。

- 780年、徳宗の治下で施行された両税法では、丁男を単位とする均等課税の原則が維持された。
- 西魏に始まる府兵制は、北周、隋を経て唐の高宗によって整備されたが、玄宗はこれを停止し、募兵制へと移行した。
- 唐代には雑徭という中央官庁の土木工事や輸送などの労役が、丁男・中男に課せられた。
- 元代には華北で新たに税糧と科差が施行されたが、江南では両税法が継続した。
- 明代には交鈔の価値が下落したことなどにより、国家収入を銀に切り替えるべく、一条鞭法が導入された。

問3 下線部 (C) に関し、次の記述のうち、適切でないものをすべて選べ。

- 新の王莽は全国の土地を国有とし、奴隷の売買を禁じた。
- 前漢の哀帝は占田・課田法を実施し、大土地所有と奴隷の数を制限した。
- 北魏の均田制では妻、奴婢、耕牛にも土地が支給されたが、唐では16歳以上の丁男のみが給田の対象となった。
- 唐代には増加する逃戸に新たに戸籍をつける括戸と呼ばれる政策が行われた。
- 魏の曹操は荒地を国有地とし、それを流民や一般農民を募って耕作させる民屯を始めた。

問4 下線部(D)に関し、この乱ののち急速に支配力を失い、滅亡へと至った王朝の時代に著された書物はどれか。

- a. 茶経    b. 五経大全    c. 資治通鑑    d. 聊齋志異    e. 水経注

問5 下線部(E)に関し、次の記述のうち、適切なものを一つ選べ。

- a. 六朝時代の江南では優雅な貴族文化が発達し、清談や古文運動が流行した。  
b. 江南の長江下流や四川地方で茶の生産が増え、茶の消費が広まると、唐は茶を専売制とした。  
c. 宋は、江南からの穀物を輸送する大運河と淮河が合流する要衝、開封に都を置いた。  
d. 朱元璋は韓山童とともに華中・華南を平定し、江南を根拠地とし金陵を都とする明を興した。  
e. 明代に江南で綿花・桑栽培が盛んになると、穀倉地帯は長江中流域に移り、「湖広熟すれば天下足る」といわれるまでになった。

問6 下線部(F)に関し、次の記述のうち、適切でないものをすべて選べ。

- a. 北海・バルト海貿易で北ドイツのニュルンベルクやリューベック、フランドルのブリュージュ、アントワールペンなどの諸都市が繁栄した。  
b. 開放耕地制、三圃制農法や重量有輪犁を用いた耕法の普及によって、農業生産性が向上した。  
c. 封建領主は農奴に対して、不輸不入権、領主裁判権、賦役・貢納権などを行使したが、他方で村の治安・安全を守った。  
d. 11世紀後半から約1世紀の間、ライン・セーナ両河の間ではコムニオン運動が広がり、都市は封建領主に特許状を要求した。  
e. フランスでは、領主直営地の分割によって古典荘園から純粹荘園への移行が進み、13世紀頃に労働地代でなく生産物地代が一般的になった。

問7 下線部(G)に関し、次の記述のうち、適切なものをすべて選べ。

- a. プランタジネット朝のエドワード3世がフランドルの領有を宣言したことから、カペー朝のフィリップ6世との間で百年戦争が始まった。  
b. ワット＝タイラーの乱はリチャード1世によって鎮圧されたが、その後、農奴制は事実上、解体した。  
c. フランスでは、北部でジャックリーの乱が、パリ市内ではエティエンヌ＝マルセル率いる市民の反乱が起きた。  
d. 東方からもたらされたペストが、1340年代後半に大流行し、西ヨーロッパの人口は約20～30%減少したといわれる。  
e. ドイツ農民戦争でルターは、農奴制、領主制の廃止だけでなく、社会変革をも目指す農民の要求に理解を示した。

問8 下線部(H)に関し、次の記述のうち、適切でないものを一つ選べ。

- a. ロシアでは、モスクワ大公国のイヴァン3世が法を整備し、農奴制を強化した。  
b. プロイセンでは、16世紀以降、グーツヘルシャフトによって農奴制が強化され、輸出用穀物が生産された。  
c. オーストリアでは1781年にヨーゼフ2世によって農奴解放令が発布されたが、その死によって頓挫した。  
d. フランスでは1789年に国民議会在農奴制の廃止を決定した。  
e. プロイセンでは1807年に農奴制が廃止され、自作農の成長と農村における資本形成より、ユンカーの資本主義的経営が発展した。

問9 下線部( I )に関し、次の①～⑤の出来事を時代の古い順に並べたものはどれか。

- ① アチェ戦争の終結            ② 甲午農民戦争  
③ サヤ＝サンの農民蜂起      ④ バープ教徒の乱  
⑤ 平英団によるイギリス軍の攻撃
- a. ①－④－⑤－②－③            b. ④－⑤－①－③－②  
c. ⑤－④－③－①－②            d. ④－②－⑤－③－①  
e. ⑤－④－②－①－③

問10 下線部( J )に関し、次の記述のうち、適切でないものをすべて選べ。

- a. メキシコ革命ではサパタやビリャらの農民が土地と自由を求め、1917年憲法で土地改革が定められた。  
b. ロシア暦二月革命で成立した臨時政府は「土地に関する布告」で、地主の所有する土地の無償没収、土地の私有権廃止を公布した。  
c. ムスタファ＝ケマルはカリフ制廃止、女性参政権の承認などとともに、土地改革を実施して近代化を進めた。  
d. 中国共産党は1947年に土地法大綱を示し、1950年に土地改革法を發布した。  
e. 1970年代前半にチリのアジェンデ政権は、銅鉱山の国有化と並んで農地改革を実施した。

II 次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示通りに解答を選び、マーク解答用紙のその記号をマークせよ。

(A) 最古と考えられる人類の化石が発見されているアフリカ大陸では、先史時代を経て、地中海に注ぐナイル川流域でエジプト文明が生まれた。同地域では上エジプトのメネスが下エジプトを征服して統一国家を形成したとされ、前4世紀にアレクサンドロス大王によって征服されるまでに約30の王朝が交替した。重要な時代は、通例、古王国・中王国・新王国の3期に区分される。第21王朝以降は衰退が著しく、異民族の侵入や外来勢力による支配が続き、ギリシア系で最後のプトレマイオス朝も前30年には滅び、エジプトはローマ帝国の支配下に入った。フェニキア人の植民市として建設された北アフリカのカルタゴも、ローマ人との長い覇権争いの末征服された。

一般に論じられる世界史において、その後アフリカが言及されるのは、イスラーム教の浸透やイスラーム文化の発展、および15世紀以降、ビザンツ帝国を滅ぼしてからのオスマン帝国による北アフリカ侵略、また「大航海時代」を経て勢力を拡大していったヨーロッパ諸国による貿易・植民地活動の拠点や対象に関連してであろう。

19世紀に入ると、アフリカ住民をアメリカ大陸における労働力として売る奴隷貿易は廃止されていき、アフリカは、工業化を推進するヨーロッパ諸国にとって、原料供給地と製品市場の役割を果たすことになった。特に1884～85年に開かれたベルリン会議以降、ヨーロッパ列強によるアフリカの侵略や植民地化は急速に進んだ。長らくオスマン帝国との結びつきが深かったエジプトなどの場合はさらに状況が複雑だった。そうしたヨーロッパ諸国の動きに対して、アフリカの人々による抵抗運動も展開されたが、アフリカ諸国の大部分が独立を達成したのは、「アフリカの年」と言われた1960年以降である。その後もさまざまな内紛や対立が生じた。

問1 下線部( A )に関連して、以下の化石人類のうち、現在最古のものと考えられているのはどれか。

- a. アウストラロピテクス＝アファランシス  
b. アルディピテクス＝ラミダス  
c. ピテカントロプス＝エレクトゥス  
d. ホモ＝サピエンス＝サピエンス  
e. ホモ＝エレクトゥス

問2 下線部 (B) に関連した記述のうち、適切なものをすべて選べ。

- a. ギザに大ピラミッドを建設させたクフ王は、古王国時代第4王朝の王である。
- b. 古代エジプト人の宗教は、アモンが唯一神として強制された中王国時代の一時期を除き、太陽神を主神とした多神教だった。
- c. 第6王朝以後統一が失われたが、下エジプトのメンフィスに興った王家が第11王朝を開き、官僚制度を整えて中央集権化を図った。
- d. 自由で写実的な様式を特徴としたアマルナ美術は、第18王朝アメンホテプ4世の時代に開花した。
- e. 第19王朝のトトメス3世はカデシュをめぐってヒッタイトと戦い、その後、後者と最古の国際条約を結んだ。

問3 下線部 (C) に関連した記述のうち、適切なものを一つ選べ。

- a. フェニキア人は地中海沿岸に多くの都市国家を建設したハム語系民族で、前15世紀頃から海上貿易で活躍した。
- b. フェニキア人が使用したフェニキア文字は、アラム文字から発展した表音文字で、今日のアルファベットの基礎となった。
- c. 地中海東岸のフェニキア人の都市エマルは、古くから海港都市として繁栄したが、新バビロニアに征服された。
- d. 「フェニキア人」は後のギリシア人による呼び名で、特産品の染料に由来する。
- e. フェニキア人の都市ウガリトは、前12世紀頃シリア王国によって破壊された。

問4 下線部 (D) に関連した記述のうち、適切なものを一つ選べ。

- a. 7世紀におけるアラブ人の侵入後イスラーム化の進展したエジプトでは、8世紀に後ウマイヤ朝のエジプト総督がトゥールーン朝を興した。
- b. 10世紀にチュニジアに建てられたイスマーイール派のファーティマ朝は、エジプトを征服してカイロに都を建設した。
- c. 西サハラでは11世紀にイスラーム王朝であるムワッヒド朝がマラケシュを首都にベルベル人により建てられ、ガーナ王国に侵攻した。
- d. 13世紀半ばにマンディングゴ人が興したマリ王国は、15世紀初めに最盛期を迎え、国王アスキア＝ムハンマドは、メッカ巡礼の際大量の金を奉納した。
- e. 9世紀頃チャド湖岸に建国されたソングアイ王国は、11世紀末にイスラーム化し、サハラ縦断交易で繁栄した。

問5 下線部 (E) に関連して、スレイマン1世時代の終わりまでにオスマン帝国の支配下に入った北アフリカの都市をすべて選べ。

- a. トリポリ    b. アガディール    c. カイロ    d. テイルス    e. フェス

問6 下線部 (F) に関連して、16～18世紀に起きた事柄の記述のうち、適切でないものを一つ選べ。

- a. ポルトガルは、ベニン王国などから奴隷を購入し、ブラジルでの砂糖生産に用いた。
- b. オランダの東インド会社はアフリカの南端に、1602年、アジア貿易のための補給基地を築いた。
- c. フランスの奴隷貿易の拠点だったセネガルは、1763年のパリ条約でイギリスに譲渡されたが、1783年フランスに返還された。
- d. イギリスは、ユトレヒト条約でスペインから植民地への奴隷供給権を獲得した。
- e. イスラーム勢力の侵入に抵抗したエチオピア帝国は、ポルトガル軍やイエズス会と関係を持ったが、西欧に支配されることはなかった。

問7 下線部（G）に関連して、ベルリン会議後に起こった①～⑤の出来事を時代順に正しく並べたものを選び。

- ① 南アフリカ戦争の開始      ② 英仏協商
  - ③ ファシヨダ事件              ④ アドワの戦い
  - ⑤ 第1次モロッコ事件
- a. ③-②-①-④-⑤
  - b. ⑤-③-④-②-①
  - c. ②-③-①-⑤-④
  - d. ④-③-①-②-⑤
  - e. ①-④-③-⑤-②

問8 下線部（H）に関連した記述のうち、適切でないものすべてを選び。

- a. エジプト=トルコ戦争に勝利したムハンマド=アリーは、1840年、ロンドン会議の結果、オスマン帝国の宗主権のもと、エジプトとシリアの総督世襲権を認められた。
- b. 1869年に開通したスエズ運河建設事業は、エジプトに多大な債務をもたらし、農民からの徴税強化や、外国人の財務管理介入を招いた。
- c. 外国支配からの独立や立憲制を要求して、ウラービー大佐を指導者に1881年反乱が起きたが、イギリスが軍事介入をし、以後エジプトを事実上の保護国とした。
- d. 第1次世界大戦後、ムスタファ=カーミルの率いるワタン党が反英独立闘争を展開し、1922年、イギリスは一方的にエジプト王国の条件付独立を宣言した。
- e. 1936年、イギリス=エジプト条約が結ばれ、イギリスはエジプトにほぼ完全な主権を認めたが、スエズ運河地帯にはイギリスが駐兵を続けた。

問9 下線部（I）に関連して、以下のアフリカ諸国の中で、1970年以降に独立を達成した国をすべて選び。

- a. ケニア                      b. ジンバブエ      c. ギニア
- d. アルジェリア              e. アンゴラ

問10 下線部（J）に関連した記述のうち、適切でないものすべてを選び。

- a. 独立直後の1960年7月、鉱物資源に富んだカタンガ州が分離独立宣言をし、それを支援したベルギー軍の介入などを契機にコンゴ動乱が始まった。
- b. 1960年の独立後原油が発見され、工業化も進んでいたナイジェリアの東部州は、1967年ビアフラ共和国として分離独立を宣言し、内戦が始まった。
- c. 1980年代から始まったソマリアでの武装勢力間の戦いでは、国連派遣の平和執行部隊の活動により1995年停戦合意がなされた。
- d. 南アフリカ共和国では、1991年マンデラ大統領がアパルトヘイトの法的撤廃を完了した。
- e. ルワンダとブルンジでは、1990年、ツチ族とフツ族の部族対立が激化し、内戦が勃発した。

Ⅲ 次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示通りに解答を選び、マーク解答用紙のその記号をマークせよ。

アッシリアの崩壊以後、4王国に分裂していたオリエン特世界<sup>(A)</sup>は、ペルシアによって再統一される。ダレイオス1世の時代にアケメネス朝ペルシア<sup>(B)</sup>は、西はバルカン地方や小アジア、南はエジプト、東はインダス川流域にまで支配が及ぶ巨大な帝国となった。古代ギリシアのポリスの世界は、つねにこの東方の大勢力ペルシアとの緊張関係のなかで展開された。

ダレイオス1世の支配に反対してイオニアの都市で反乱が起こると、それを契機にペルシアとギリシア諸都市の間に長期にわたる戦争が勃発する。(C)の指揮するギリシア軍が勝利したサラミスの海戦が象徴するように、戦況はギリシア側に有利に展開した。しかしペルシア帝国の圧力はギリシアにとってつねに脅威的だった。ペルシアの反攻に備えて、ギリシアはアテネを盟主としたデロス同盟を結成する。だがこの同盟によりアテネが強大化するのを警戒したスパルタは、ペロポネソス同盟を結んでこれに対抗した。アテネとスパルタの間にはやがてペロポネソス戦争が起こった<sup>(D)</sup>。ペルシアの支援を受けたスパルタが勝利するが、この戦争によってギリシアのポリス世界は衰退に向かうことになった。その間隙を縫って勢力を拡大したのが、ギリシア北方に興ったマケドニア王国である。フィリッポス2世がアテネ・テーベ連合軍を破ってギリシア全土を制圧すると、その子アレクサンドロス3世(大王)はペルシアへの報復を名目にマケドニアとギリシアの連合軍を率いて東方遠征に乗り出した。(F)の指揮するペルシア軍に三つの会戦<sup>(G)</sup>で勝利したアレクサンドロス大王は、エジプト、バビロニアなどペルシア帝国の西側半分を占領した。その後、アレクサンドロス大王はさらに東に向かい、中央アジアのパルティア、バクトリア、ソグディアナ<sup>(H)</sup>に至り、インダス川を渡ってインド<sup>(I)</sup>にまで侵攻した。その後、進路を西にとりバビロンに帰還し、さらにアラビア半島遠征を試みるが、大王自身の死によってその計画は頓挫した。

アレクサンドロスの築いた巨大な帝国は、彼の死後、ディアドコイ国家に分裂する。しかしオリエン特世界へのギリシア人の移住やギリシア風の都市建設は引き続き行なわれた。その結果、19世紀の歴史家がヘレニズム<sup>(J)</sup>と名付けた独特な文化が生まれることになった。

問1 下線部(A)に関連し、世界で最初に金属貨幣を鑄造したといわれる王国はどれか。

- a. メディア    b. リディア    c. 新バビロニア    d. エジプト    e. ミタンニ

問2 下線部(B)に関連し、アケメネス朝ペルシア帝国についての記述のうち、適切でないものをすべて選べ。

- a. アケメネス朝で国教とされたゾロアスター教は、唐の時代に中国に伝わり、祇教と呼ばれた。  
b. 全国を20あまりの州に分け、サトラップをおいて統治した。  
c. キュロス2世によりバビロン捕囚を解かれたユダヤ人は、帰国してイェルサレムに神殿を再建し、ユダヤ教を成立させた。  
d. 「王の道」という軍用道路を整備し、「王の耳」「王の目」と呼ばれる監察官を配備した。  
e. ペルセポリスを帝国行政の中心となる首都と定めた。

問3 空欄(C)に入るべき適切な人物は誰か。

- a. アルキビアデス    b. クレオン    c. ペリクレス    d. テミストクレス    e. エパミノンドス

問4 下線部(D)に関連し、アテネとスパルタの政治・経済体制についての記述のうち、適切でないものをすべて選べ。

- a. アテネにはメトイコイと呼ばれる他のポリス出身の居留外国人が多数おり、商工業や文化の面で活躍した。
- b. スパルタには、完全な市民権をもつもの、重装歩兵に召集されるが参政権をもたないヘイロータイ、国有奴隷として市民に隷属する農民であるペリオイコイの三つの階層があった。
- c. ポリスの所有するラウレイオン銀山が産出する大量の銀は、スパルタに膨大な戦費をまかなう財政基盤を与えた。
- d. スパルタでは、市民すべてを重装歩兵に召集するための軍国主義的な教育が行なわれ、一種の鎖国政策がとられた。
- e. アテネでは、ペルシア戦争で活躍した三段櫂船の漕ぎ手となった無産市民層の発言力が高まり、民主政の徹底が進んだ。

問5 下線部(E)に関連し、ペロポネソス戦争についての歴史を著したのは誰か。

- a. エウセビオス      b. ヘロドトス      c. ストラボン      d. クセノフォン      e. トウキディデス

問6 下線部(F)に入るべき適切な人物は誰か。

- a. ネブカドネザル2世      b. クセルクセス1世      c. カンピュセス2世
- d. ダレイオス3世      e. ホスロー1世

問7 下線部(G)に関連し、三つの会戦(戦い)とはどれか。

- a. グラニコス河畔の戦い・イッソスの戦い・アルベラの戦い
- b. イブソスの戦い・アルベラの戦い・ガウガメラの戦い
- c. イブソスの戦い・カイロネイアの戦い・グラニコス河畔の戦い
- d. テルモピレーの戦い・アルベラの戦い・イッソスの戦い
- e. カイロネイアの戦い・ガウガメラの戦い・テルモピレーの戦い

問8 下線部(H)に関連し、この三つの地域の歴史についての記述のうち、適切でないものを一つ選べ。

- a. 中国では安息と呼ばれたパルティアは、首都をクテシフォンに定め、東西貿易の利益を享受した。
- b. ソグディアナ地方出身のソグド人は中国では胡人と呼ばれ、その言語は中央アジアの商用語として用いられた。
- c. バクトリアは前3世紀中頃シリア王国から独立し、ヘレニズム文化をインドに伝え、ガンダーラ美術の発展に大きな影響を与えた。
- d. 前3世紀中頃、セレウコス朝から独立しアルサケス朝を開いたパルティアは、ギリシア系移民の建てた王国である。
- e. 前2世紀にバクトリア王国を滅ぼしたトハラ(大夏)族は、この地方に移動してきた大月氏に征服された。

問9 下線部(I)に関連し、アレクサンドロスの東方遠征前後から1世紀頃までのインドの歴史についての記述のうち、適切でないものをすべて選べ。

- a. アレクサンドロスのインド侵攻の直後、チャンドラグプタがナンダ朝を倒してマウリヤ朝を開いた。
- b. マウリヤ朝第3代のカニシカ王は仏教を信仰し、ダルマに依る国家の統治を掲げ、第3回仏典結集を援助した。
- c. 上座部仏教はアショーカ王の時代にスリランカに伝えられ、やがて東南アジアに広がった。
- d. 前3世紀頃、南インドに開かれたパッラヴァ朝ではタミール文化が発達し、ローマとの交易も行なわれた。
- e. 前4世紀末頃、ベンガル湾の中中部地方で栄えていたカリンガ国は、アショーカ王により征服された。

問10 下線部 (J) に関連し、ヘレニズムとその時代についての記述のうち、適切でないものを一つ選べ。

- a. ポリスの世界観を超えたより普遍的な世界の一員として個人を見る「コスモポリタニズム」の考え方が広がった。
- b. 「サモトラケのニケ」, 「ラオコーン」, 「瀕死のガリア人」はヘレニズムを代表する彫刻である。
- c. 理性により欲望や感情を抑え、徳を養うことが人生の目的であるとするエピクロス派の哲学が生まれた。
- d. 新約聖書は、アッティカの方言などをもとに生まれたヘレニズム時代の共通のギリシア語であるコイネーで書かれた。
- e. 正倉院の宝物「漆胡瓶」は、ヘレニズム文化の影響を受けたササン朝ペルシア様式の美術品である。

IV 次の (イ) (ロ) の文章を読み、問1～10について、各設問の指示通りに解答を選び、マーク解  
用紙のその記号をマークせよ。

(イ) 13世紀以降ロシアはキプチャク＝ハン国<sup>(A)</sup>の支配下に置かれていたが、15世紀末になるとその支配から脱し、ロシアの統一がほぼ達成された。以後ロシアは専制君主政の基礎を固め、ヨーロッパとアジアにまたがる帝国への道を歩みだした。

17世紀初めにロマノフ朝が成立したが、前世紀末からの政情の混乱、対外戦争、農奴制強化などのため庶民の生活は疲弊し、暴動や反乱が起きた。ロシアは積極的な対外政策を進め、東方では太平洋岸に達する一方、スウェーデンとの北方戦争に勝利してバルト海の覇権を握り、西方ではポーランド分割に参加した。また19世紀前半には、ギリシア独立戦争・エジプト＝トルコ戦争に介入するなどの南下政策<sup>(C)</sup>を展開した。一方国内ではピョートル1世により西欧化に向けた改革が行われたが、農奴制は温存された。

19世紀半ばにクリミア戦争に敗北してロシアの後進性が顕在化すると、アレクサンドル2世の改革が行われ、ロシアの資本主義化<sup>(E)</sup>が進み始めたが、改革に不満な知識人たちによるナロードニキ運動も起きた。

(ロ) ロシアでは、1917年の2度の革命によって、史上初の社会主義政権が誕生した。ボリシェヴィキ政府はドイツとの単独講和、プロレタリア独裁制と戦時共産主義によって自らの政権を防衛しようとした。反革命軍との内乱や諸列強との干渉戦争を経て、22年末各ソヴィエト国家によるソヴィエト社会主義共和国連邦が成立した。レーニン死後、スターリンの下での3回に及ぶ五カ年計画でソ連の国力は急速に充実した。41年に独ソ戦が始まると、ソ連はドイツの攻撃で多大の損害を受けながら反撃し、第二次世界大戦の戦勝国となった。

戦後、ソ連は勢力を拡大した社会主義陣営を率いて資本主義諸国と鋭く対立した。56年のフルシチョフによるスターリン批判以後、平和共存政策が進められたが、ブレジネフ政権は諸外国の親ソ政権支援のため軍事介入し、国内の自由化の動きも抑圧した。ゴルバチョフによるペレストロイカ以後、市場経済導入、中ソ和解、対米・対西欧友好の政策がとられるようになったが、国内の民族問題や経済危機が表面化した。91年8月の保守派クーデター失敗ののち12月ソ連は解体し、連邦構成国のうち11カ国が独立国家共同体<sup>(J)</sup>を結成した。

問1 下線部 (A) について、キプチャク＝ハン国に関連する記述のうち適切なものを一つ選べ。

- a. ハイドゥの乱には参加せず、元朝と友好関係を保った。
- b. 14世紀後半のカザン＝ハン<sup>(I)</sup>の時代に最盛期を迎えた。
- c. チンギス＝ハンの子バトゥがヨーロッパ遠征からの帰途に建国した。
- d. 14世紀末にティムールによって首都サライを攻略され衰退し始めた。
- e. 住民の多くがイラン系であったので、早くからイスラーム化が進んだ。

問2 下線部 (B) について、北方戦争に関する記述のうち、適切でないものをすべて選べ。

- a. この戦争が始まった時のスウェーデン国王はカール12世である。
- b. この戦争では1709年のポルタヴァの戦い以後ロシア軍が優勢となった。
- c. この戦争の終結後にロシアの首都はペテルブルクに移された。
- d. この戦争ではデンマークとザクセンがスウェーデン側について参戦した。
- e. この戦争の講和条約は1721年に結ばれたニスタット条約である。

問3 下線部 (C) について、ポーランドの歴史に関する記述のうち、出来事のあった年が間違っているものをすべて選べ。

- a. 1286年にリトアニアとポーランドが合体してヤゲウォ (ヤゲロー) 朝が成立した。
- b. 1572年に世襲王制にかわり、貴族階級による選挙王制が実施された。
- c. 1772年にコシユシコがポーランド分割に反対して蜂起したが、ロシア軍に弾圧された。
- d. 1807年にプロイセン領ポーランドであった地にワルシャワ大公国が建国された。
- e. 1830年にロシアの支配下にあったポーランド立憲王国でロシアからの離脱を求める反乱が起きた。

問4 下線部 (D) について、この戦争の結果ロシアとオスマン帝国が結んだ講和条約はどれか。

- a. カルロヴィッツ条約      b. パッサロヴィッツ条約      c. サン＝ステファノ条約
- d. アドリアノーブル条約      e. キュチュク＝カイナルジ条約

問5 下線部 (E) について、この戦争に関連する記述のうち、適切でないものをすべて選べ。

- a. 1856年のパリ条約で南ベッサラビアはロシアからモルダヴィアへ返還されることになった。
- b. 1853年にロシアはオスマン帝国とその同盟国であるイギリス・フランスと戦闘状態におちいった。
- c. この戦争に従軍したトルストイはセヴァストーポリ要塞の戦闘の様を描いた作品を著した。
- d. この戦争にオスマン帝国側で参戦したサルデーニャは国際的威信を高めフランスとの関係を強めた。
- e. デュナンはこの戦争中に戦場での負傷兵救援活動に遭遇した体験から国際赤十字運動を提唱した。

問6 下線部 (F) について、ボリシェヴィキに関連する記述のうち、適切なものを一つ選べ。

- a. ロシア社会民主労働党は1903年の党大会でマルトフらのメンシェヴィキとレーニン、トロツキーらのボリシェヴィキに分裂した。
- b. ボリシェヴィキは広く労働者・農民などに党員を拡大し多数派を形成できる党組織を目指して結成された。
- c. 全ロシアソヴィエト会議の第3回大会で、新たな政権としてボリシェヴィキと社会革命党左派から成る人民委員会が成立した。
- d. 1918年1月の憲法制定議会で第2党のボリシェヴィキの要求が拒否されたので、レーニンは議会を閉鎖・解散し事実上のボリシェヴィキ独裁体制をしいた。
- e. 1917年7月に首都モスクワで労働者・兵士の武装蜂起が起きたが臨時政府により鎮圧され、ボリシェヴィキ指導部も弾圧された。

問7 下線部 (G) について、独ソ戦に関連する記述のうち、適切でないものをすべて選べ。

- a. ドイツ軍のソ連侵攻開始の翌年にイギリスとソ連は初めて対ドイツ戦での相互援助を約束した。
- b. ドイツ軍はソ連への侵攻開始後数ヵ月でロシアのヨーロッパ部分の大半を占領し、モスクワ・レニングラードに迫った。
- c. スターリンは連合国との協力推進のため1943年5月コミンテルンを解散した。
- d. スターリンは1943年11月からのテヘラン会談で対ドイツの第二戦線の実行を要求し、ドイツ降伏後の対日参戦を約束した。
- e. ソ連軍は1943年初頭に始まったスターリングラード攻防戦でドイツ軍に勝利し、44年末までにソ連領内からドイツ軍を撤退させた。

問8 下線部 (H) について、第二次大戦終結からスターリンの死までの時期に、ソ連が行った対外政策に関する記述のうち、適切なものを一つ選べ。

- a. アメリカのマーシャル=プランに対抗して東欧諸国やアジアの社会主義国とともにコメコンを設立した。
- b. 英米仏が西ドイツでの通貨改革を西ベルリンに拡大したことに対抗して、西ベルリンへの陸上交通を全面的に遮断した。
- c. 中華人民共和国との間で日本とその同盟国の侵略阻止などを内容とする中ソ友好同盟条約を締結した。
- d. アメリカ主導の北大西洋条約機構に対抗して東欧7カ国とともにワルシャワ条約機構を結成した。
- e. 各国共産党・労働者党間の情報交換を目的に東欧共産圏諸国の共産党を結集してコミンフォルムを組織した。

問9 下線部 (I) について、ブレジネフ政権の時代に起きた出来事①～⑤を年代順に並べたものとして、適切なものはどれか。

- ① ソ連軍がアフガニスタンの内戦への軍事介入を開始した。
  - ② ウスリー川のダマンスキー島 (珍宝島) でソ連と中国の軍事衝突が起きた。
  - ③ 自由化が進んでいたチェコスロヴァキアにソ連が東欧4カ国とともに軍事侵攻した。
  - ④ ノーベル賞受賞作家のソルジェニーツィンが体制批判を理由に国外追放された。
  - ⑤ 第一次米ソ戦略兵器制限交渉 (SALT I) が調印された。
- a. ③-②-⑤-④-①    b. ②-③-④-⑤-①    c. ③-②-④-①-⑤  
d. ②-③-⑤-④-①    e. ③-②-⑤-①-④

問10 下線部 (J) について、1993年に独立国家共同体に参加した国はどこか。

- a. カザフスタン    b. トルクメニスタン    c. グルジア    d. アルメニア    e. モルドヴァ

[以下余白]